

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 16 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370586

研究課題名(和文) パーソナル・テリトリーの認識と発話スタイルに関する日米韓中の対照研究

研究課題名(英文) A comparative study between Japan, English, Korea and Chinese on the perception and speech style of personal territory

研究代表者

許 明子 (HEO, Myeongja)

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：10322611

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では日本語、韓国語、中国語、英語を母語とする話者間の初対面会話の分析を通して、それぞれの話者のコミュニケーションスタイルの異同を明らかにした。初対面の相手に対してどのような話題を選択するのか、また私的領域であるパーソナル・テリトリーについて言及するのか否か、言及する場合はどのような言語形式を用いるのかについて会話の分析を行った。その結果、日本人に比べて韓国人、中国人のほうが相手のパーソナル・テリトリーに言及する割合が高く、言及する内容にも違いがあることが分かった。また使用する言語形式にも違いがあり、コミュニケーションスタイルにも関係していることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：In this research, we analyzed the first conversation between speakers of Japanese, Korean, Chinese and English as their mother tongue, and revealed the difference in communication style of each speaker. We analyzed what kind of topic to select for the first party and whether to refer to personal territory which is private area. In addition, we analyzed the conversation about what type of language is used when referring. As a result, it was found that the ratio of Koreans and Chinese to refer to the other person's territory is higher than that of the Japanese, and there are differences in the content to be mentioned. There was also a difference in the language format used, and it became clear that it relates to the communication style as well.

研究分野：日本語教育

キーワード：パーソナル・テリトリー 話題選択 コミュニケーションスタイル 日韓中英

1. 研究開始当初の背景

本研究の理論的な背景は、鈴木睦(1997「日本語教育における丁寧体世界と普通体世界」)および益岡隆志(1997「表現の主観性と視点」)による「聞き手の私的領域」の概念である。鈴木(1997)は日本語の「私的領域」に関連する言語内容について分析し、丁寧体の世界では聞き手のアイデンティティにかかわる言語内容、聞き手の意志決定にかかわる行動の要求、聞き手の能力に関する内容等は聞き手の私的領域に含まれるため、それに関連する発話は回避すべきであると述べている。

許明子(2011)では、各個人にはパーソナル・テリトリーが存在し、そのパーソナルな内容は以下の図1のような段階性を持って存在していると主張している。パーソナル・テリトリー(以下、PT)の段階によって、その内容を表す際に使われる言語表現には大きな違いがあるため、コミュニケーションを行う際に聞き手のPTについて認識を持つことが非常に重要である。

日韓中の間にはPTに関するずれや違いが存在し、そのずれがコミュニケーション活動の問題につながっていることが多い。許明子(2009)で述べられているように、日本語と韓国語は聞き手の「共有」に関する認識にずれがあり、日本語は聞き手のPTに踏み込まず距離を保つ表現が多いのに対して、韓国語はPTにかかわる内容であっても共有するための表現が多く用いられているとしている。PTの概念と丁寧体は特に密接な関係があると指摘されている(許明子2010)。

日本語のPTは図1で示したように、丁寧体を使用する相手に対して敬語の使用や言語表現の請託にもPTへの言及は非常に重要な概念である。

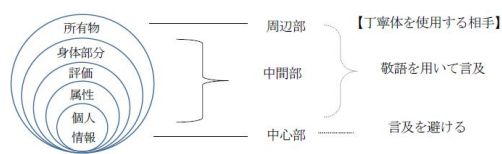


図1 PTと丁寧体の使用

日本語学習者はPTの認識が明確ではないか、もしくは日本語母語話者と認識のずれが生じる場合がある。日本語を学習する際には日本語の言語的な特徴だけでなく、PTの認識や言語表現との関連を理解することによってコミュニケーション能力の向上につながる日本語の学習が可能になると思われる。しかし、PTに関する学習者の意識と言語使用の関連性に関する調査研究および談話分析はほとんど行われてこなかったのが現状である。

本研究では、日韓対照研究と日本語教育話し手と聞き手との関係から見た日本語と韓国語、中国語の言語行動の対照研究の観点からPTの認識やコミュニケーション・スタ

イルの相違点についてどのような違いが存在しているかを明らかにする。

2. 研究の目的

本研究は許明子(2015)で行った日本語、韓国語、中国語を母語とする話者のPTの領域に関する認識の対照研究の成果をさらに発展させたもので、日本語母語話者、韓国人日本語学習者、中国人日本語学習者の初対面同士が会話を行う際に、聞き手のPTにどのように踏み込んでいるのか、またどのような会話の展開を示すのかについて調査を行い分析したものである。異文化の接触場面ではコミュニケーション・スタイルの違いによる誤解や摩擦が生じることがあり、日本語教育現場においてもとらえなければならない問題の一つである。本研究では、日韓中の聞き手のPTの段階性について意識調査を行うとともに、発話内容・表現形式に関する談話分析・会話分析を通してコミュニケーション・スタイルについて比較対照研究を行う。本研究の成果を日本語教育現場への応用することを目指す。

日本語学習者の発話場面における大きな問題点の一つに、文法的には正しい表現であっても、丁寧さの観点からは不適切であったり、相手に不快感を与えてしまったりすることがあり、コミュニケーション活動を行う上で、困難を感じている学習者が少なくない。日本語の学習がある程度進んだ中上級レベル以上の学習者でも日本語母語話者と円滑なコミュニケーションを行うことは容易なことではない。その理由に、日本人母語話者と学習者とのPTに関する意識のずれやコミュニケーション・スタイルのずれがあり、そのずれや違いによって相互理解に誤解や摩擦が生じていると考えられる。

そこで、本研究では日本語、韓国語、中国語の聞き手との関係とPTに関する認識について対照研究を行う。

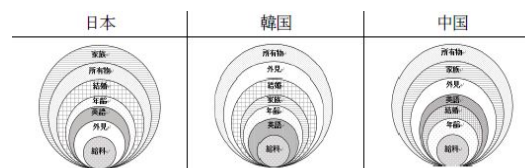


図2 対先生の日韓中のPTの段階性

日韓中のPTに関する認識の異同およびコミュニケーション・スタイルの異同について対照分析を行い、その結果を日本語教育におけるコミュニケーション教育に応用できる方法について考察を行うことが本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究では会話調査を行い、日韓、日中、韓中の母語話者が与えられた話題について両者が意見交換を行う際に、どのようなコミ

コミュニケーション・スタイルで会話を行うかについて分析を行った。意見交換を行う場合、自分の意見を相手に分かりやすく伝え、相手の意見に対してなんらかの反応を示す必要がある。つまり、意見述べの会話では、話者として会話に参加するだけではなく、聞き手としても積極的に参加する必要があるため、両者のコミュニケーション・スタイルを観察する上で有効であると考えられる。

- ・調査期間：2013年12月～2015年1月
- ・調査協力者：日本語母語話者（筑波大学在学中）6名
- ・韓国人日本語学習者（上級レベル）6名
- ・中国人日本語学習者（上級レベル）6名
- ・調査方法：日韓、日中、韓中の2名ずつペアで会話18組
- ・対面式会話、会話はビデオカメラで収録
- ・会話終了後にフェイスシート、アンケート調査

#### 4. 研究成果

以上の調査結果について、PTへの言及、相槌の打ち方、会話展開の仕方の3つの観点から分析を行った。各項目別に研究成果をまとめると以下の通りである。

##### (1) パーソナル・テリトリーへの言及

日本、韓国、中国のPTへの言及内容を表にまとめると表1のとおりである。

表1 日韓中のPTへの言及内容

PTの内容	日本	韓国	中国
所有物			
年齢		学年、年齢	年齢
出身大学		出身大学、出身高校	
外見		若く見える	
属性(生活)	住まい	家賃、アルバイトの時給、実家、方言、就職先	家賃、アルバイト
属性(能力、学力)		高校の成績、所属大学のランキング	外国語(中国語、ドイツ語)能力、英語力
属性(経験、意見、価値観)	塾での経験、願望、異性への価値観、恋愛観	サークル、交際経験、趣味、意見、恋愛観、恋愛経験、結婚生活	整形手術の願望、恋愛観
個人情報	身分	身分、専門	国籍、所属、専攻

↑ 周辺部  
↓ 中心部

日韓中ともにPTへの言及は見られたが、言及の割合、言及する項目には差が見られた。特に韓国人の場合、PTの中心部から周辺部に至る内容まで言及しており、PTの認識が希薄である可能性がうかがえる。日本人もPTの中心部への言及は見られるが、韓国人や中国

人に比べると言及している頻度が低いことが分かった。

また、PTの内容に言及する際に使用する言語形式や会話展開には差が見られた。日本人の場合、ぼかし表現を使用し、相手のPTに踏み込んでいることを意識している一方、韓国人・中国人の場合、連続質問型の会話が多く見られ、PTに踏み込んでいるという意識がないか希薄である可能性がうかがえた。この違いは会話の展開の仕方についても明確な差として見られており、次節の会話展開の仕方において詳細を述べる、

データ	収録時間	協力者	性別	年齢
会話 日韓	23分	日本人(J1)	女	23歳
	38秒	韓国人(K1)	女	21歳
会話 日中	23分	日本人(J2)	女	23歳
	58秒	中国人(C1)	女	23歳
会話 韓中	25分	韓国人(K2)	男	32歳
	40秒	中国人(C2)	男	25歳

##### (2) 相槌の使用の違い

日韓、日中、韓中のコミュニケーション・スタイルの相違点を分析する手がかりとして相槌の打ち方について分析を行った。分析を行った会話データは以下の通りである。

分析の結果、相槌の使用頻度は次の表でまとめたように、明らかな差が見られた。

表2 相槌の使用頻度

会話データ	協力者	相槌の使用数
会話 日韓	日本人(J1)	76回
	韓国人(K1)	28回
会話 日中	日本人(J2)	99回
	中国人(C1)	85回
会話 韓中	韓国人(K2)	39回
	中国人(C2)	19回

どの会話データにおいても日本人の相槌の使用頻度が高いことがうかがえるが、相槌の形式にも違いが見られた。相槌を言語形式別に分類すると次の表3の通りである。

表3 相槌の言語形式別出現頻度

		う ん 系	は い 系	あ 系	え 系	へ え 系	お 系	は 系	そ う 系	分 か る 系	そ の 他	な る ほ ど
会 話 ①	J1		36	17	2	2	4		5		5	5
	K1	6	11	5	2	2			2			
会 話 ②	J2	61	31	3				2	2			
	C1	8	39	3	5	9		1	3		17	8
会 話 ③	K2	5	1	6	6	6	1					14
	C2	5		4	1	2			6		1	

上記の日韓中の相槌の打ち方の特徴は以下の3点にまとめられる。

相槌の頻度

会話 日韓 J1 > K1

会話 日中 J2 > C1

会話 韓中 K2 > C2

相槌の種類

- ・会話、会話 は「はい」系、「うん」系が多い。ついで「あ」系。
- ・J1、C1、に「なるほど」が出現
- ・C1に「そうですよね」の不自然な相槌が出現
- ・会話 は相槌の頻度は少ないが、形式にバリエーションが見られる。

非言語的要素

会話、会話 とともに、相槌、うなずき、笑いの頻度が高い

(3) 会話展開

日本語母語話者は「話題展開型」の会話展開が見られ、韓国語母語話者には「連続質問型」の会話展開の特徴が見られた。たとえば、日本人会話では、以下の会話例が見られ、話題を展開する際にぼかし表現が使われていることが分かった。

<会話例1>

- 224 C4:(次のテーマについて) どうしますか?
- 225 J5: まあ、じゃあ、なんか...一番おもしろそうなやつ...
- 226 (2人で話題リストを見ている)
- 227 J5: ま、見た目の話ですかね。おもしろいのは...じゃあ、例えば、恋人を選ぶ時は、やっぱり見た目...中身よりも見た目ですか?
- 228 C4: いや、いえいえ。
- (略)
- 231 J5: なるほど。いやあ~どうなんだろ。ちゃんと中身を見て決めると感じですか?
- 232 C4: はい、でも、まずは...
- 233 J5: まずは見た目ですよ。

一方、韓国語と中国語の会話では、次の会話

例2のように、連続質問型の会話が多く見られ、両者が質問しあうことで会話が展開していることがうかがえた。

<会話例2>

(略)

168 K6: 結婚して、何年目くらいですか?

169 C3: 3年目。

(中略)

176 K6: どうやって会いました? 主人と。

(中略)

183 K6: どこで会いましたか?

184 C3: つくばで。

185 K6: ええええ。日本人ですか?

186 C3: ン、違う、中国人。

187 K6: え、なのにつくばで?

188 C3: うん。彼もあの筑波大学の留学生。

189 K6: C3さんも学部も筑波だったんですか?

190 C3: いえいえいえ。うん。

191 K6: つくばに来ては何年ぐらい経ちましたか?

192 C3: 今年が4年目。

193 K6: あああ。

194 C3: うん、4年目...うん、4年目です。

195 K6: で、つくばで会って、国に帰って結婚してで、また来たんですか?

196 C3: はい。

197 K6: 主人も今つくばに?

198 C3: うん。うん。

199 K6&C3: (笑い)

200 K6: 主人も修士なんですか?

201 C3: 今卒業した。

202 K6: ああ。

会話データの分析の結果、日本語学習者のほうが母語話者に比べて多様な内容のPTへの言及が見られ、踏み込みの度合いや頻度が高いことが分かった。また、会話が断絶されるような言及や質問が多く見られた。

一方、日本語母語話者は話題転換や円滑に会話を継続させるために意識的にPTに言及していることが分かった。また、相手のPTへの踏み込みに対する配慮を示すためにぼかし表現を使用していることが分かった。

本研究では、日韓中のPTの認識と会話展開について研究成果を以下のようにまとめることができる。

(1) 日韓中母語話者では韓国語が最もPTへの言及が多く行われていた。PTへの言及の内容は個人のアイデンティティーにかかわるものも見られ、韓国語母語話者は聞き手のPTへの言及に対する認識が希薄である可能性が示唆された。

(2) 日本人は韓国語、中国語に比べて相槌の回数が多く、種類も多様であることが分かった。その背景には聞き手と会話・話題を共有するコミュニケーション・スタイルがあると言える。

(3) 会話の展開の仕方では、韓国語、中国語

は質問が多く、連続質問型の会話を展開させていた。一方、日本人は話題を転換することによって会話を進めていく話題転換型の会話が多く見られた。

<引用文献>

鈴木睦(1997)「日本語教育における丁寧体世界と普通体世界」『視点と主観性』くろしお版、45-74

許明子(2009)「

」『  
』国語日文学会

J&C 出版社、277-293

許明子(2010)「日韓対照研究と日本語教育話し手と聞き手との関係から見た日本語と韓国語の言語行動について」『日本語教育研究への招待』くろしお出版、73-288

許明子(2011)「聞き手のパーソナル・テリトリーに関わる談話分析 日本人・韓国人・中国人母語話者の調査を通して」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第26号、筑波大学留学生センター、1-17

許明子(2015)『パーソナル・テリトリーとポライトネス・ストラテジーに関する日韓中対照研究』平成23~26年度科学研究助成金基盤(C)研究成果報告書

益岡隆志(1997)「表現の主観性と視点」『視点と主観性』くろしお出版、1-11

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

1) 許明子、永井絢子、井上里鶴、小川恭平(2016)「留学生はいかにパーソナル・テリトリーに踏み込むのか 初対面の日本語学習者と母語話者の会話に見られる発話の分析を通して」『日本語教育方法研究会誌』Vol.22No.3、8~9頁、2016年3月

2) 許明子(2016)「初対面相手に対するパーソナル・テリトリーへの言及 日本語母語話者と韓国人日本語学習者の意見述べの会話を通して」(『筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター日本語教育論集』第31号) 33~49頁、2016年3月

3) 許明子(2016)「韓国人・中国人日本語学習者同士の会話に見られるパーソナル・テリトリーへの踏み込みと会話展開 同年代初対面同士の会話の分析を通して」『第11回国際日本語教育・日本研究シンポジウム論文集』The 11<sup>th</sup> International Symposium on Japanese Language and Japanese Studies Proceeding【PDF版】、2016年11月、Society of Japanese Language Education HongKong

4) 許明子・井上里鶴(2016)「韓国人日本語学習者の初対面の日本語母語話者との会話に見られる話題選択について 滞在期

間の長期化に伴う発話内容や会話展開の変化に注目して」『第27回第二言語習得研究会(JASLA)全国大会予稿集』99~100頁、第二言語習得研究会、2016年12月

5) 許明子(2016)「初対面の会話における話題の選択と会話の進行方法」『日本語用論学会第18回大会論文集』247~250、2016年12月

6) 許明子(2015)「日韓中母語話者の初対面話者間の会話におけるコミュニケーション・スタイルの対照研究:意見述べの場面における相槌の使用を通して」Canadian Association Japanese Language Education 2015【PDF版】67-76頁

7) 許明子・関崎博紀・ブッシュネル ケード・井出里咲子(2015)「Breaking the Ice? :日本人と留学生の初対面会話における打ち解けの手続き」『日本語用論学会第18回大会ワークショップ、論文集、243~245。

8) 許明子(2015)「日本語母語話者と韓国人日本語学習者の会話の展開に関する一考察 初対面話者間の意見述べにおける相づちの分析から」『韓国日本語学会第31回国際学術発表大会論文集』61~67頁、韓国日本語学会、2015年3月

9) 許明子(2015)「パーソナル・テリトリーに関わる発話内容に関する日韓対照研究」『韓国日本語学会第28回国際学術発表大会論文集』95~102頁、韓国日本語学会、2015年3月

[学会発表](計10件)

1) 許明子・井上里鶴(2016)「韓国人日本語学習者の初対面の日本語母語話者との会話に見られる話題選択について 滞在期間の長期化に伴う発話内容や会話展開の変化に注目して」第27回第二言語習得研究会(JASLA)全国大会、2016.12.17九州大学(福岡県福岡市)

2) 許明子(2016)「韓国人・中国人日本語学習者同士の会話に見られるパーソナル・テリトリーへの踏み込みと会話展開 同年代初対面同士の会話の分析を通して」第11回国際日本語教育・日本研究シンポジウム、The 11<sup>th</sup> International Symposium for Japanese Language Education and Japanese Studies、香港日本語教育研究会(香港)、2016.11.19~20

3) 許明子(2016)「日本語母語話者と学習者のパーソナル・テリトリーへの踏み込みとその発話表現に関する比較 初対面の同年代大学生同士の会話内容の分析から」Canadian Association for Japanese Language Education (CAJLE) 2016 Annual Conference、2016.8.17-18、Crowne Plaza Niagara Falls-Falls view、CAJLE カナダ日本語教育振興会(カナダ)

4) 三木杏子・許明子(2016)「フランス語母語話者のパーソナル・テリトリーにかかわる言及の有無と発話内容に関する分析

日韓中とのコミュニケーション・スタイルの比較」第20回AJEヨーロッパ日本語教育シンポジウム、Ca' Foscari University of Venice (Italy)、Association of Japanese Language Teachers in Europe (AJE)2016年7月7日～9日(イタリア)

- 5) 許明子(2016)「韓国人日本語学習者の相手に対する親近感の表し方について 日本語母語話者との会話の分析から」第15回対照言語行動学研究会、青山学院大学、2016年7月2日(東京都渋谷区)
- 6) 許明子・永井絢子、井上里鶴、小川恭平(2016)「留学生はいかにパーソナル・テリトリーに踏み込むのか - 初対面の日本語学習者と母語話者の会話に見られる発話の分析を通して - 」第46回研究会(埼玉県さいたま市)2016年3月19日
- 7) 許明子・井出里咲子・ブッシュネル ケード・関崎博紀「Breaking the Ice:日本人と留学生の初対面会話における打ち解けの手続き」日本語用論学会第18回大会ワークショップ(井出里咲子、ブッシュネル ケード、関崎博紀氏とワークショップ)、名古屋大学(愛知県名古屋市)、2015年12月
- 8) 許明子(2015)「日韓中母語話者の初対面話者間の会話におけるコミュニケーション・スタイルの対照研究:意見述べの場面における相槌の使用を通して CONTRAST STUDY ABOUT COMMUNICATION STYLES IN THE FIRST MEETING OF THE CONVERSATION OF JAPANESE, KOREAN AND CHINESE; THROUGH THE USE OF BACK-CHANNEL IN THE STATED OPINION」2015 CAJLE Annual Conference、Simon Fraser University, Vancouver, British Columbia、Canadian Association for Japanese Language Education、2015年8月20日(カナダ)
- 9) 許明子(2015)「日本語母語話者と韓国人日本語学習者の会話の展開に関する一考察」韓国日本語学会第31回国際学術発表、韓国徳成女子大学(韓国ソウル)、2015年3月21日
- 10) 許明子(2014)「パーソナル・テリトリーの認識と発話内容に関する日韓中対照研究」第10回国際日本語教育・日本研究シンポジウム、香港大学、香港日本語教育研究会(香港)、2014年11月15日

〔図書〕(計1件)

- 1) 許明子(2016)「パーソナル・テリトリーの認識と発話内容に関する日韓中対照研究 日本語母語話者と韓国人・中国人日本語学習者の比較を通して The Contrastive Study of Japanese and Korean and Chinese on Personal Territorial Recognition and Speech Contents: Through the comparison between Japanese Native Speaker and Korean, Chinese Japanese Learner」『変化する国際社会に

おける課題と可能性』71～87頁、第10回国際日本語教育・日本文化シンポジウム大会論文集編集委員会【編】、香港日本語教育研究会、2016年11月。

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

許明子(HEO, Myeongja)  
筑波大学・人文社会系・准教授  
研究者番号: 10322611

### (2) 研究分担者

関崎博紀(SEKIZAKI, Hironori)  
筑波大学・人文社会系・助教  
研究者番号: 30512850

ブッシュネル ケード(BUSHNELL, Cade)  
筑波大学・人文社会系・准教授  
研究者番号: 30576773

井出里咲子(IDE, Risako)  
筑波大学・人文社会系・准教授  
研究者番号: 80344844